

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

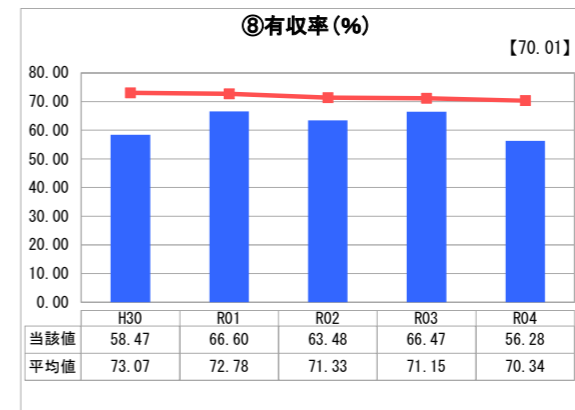
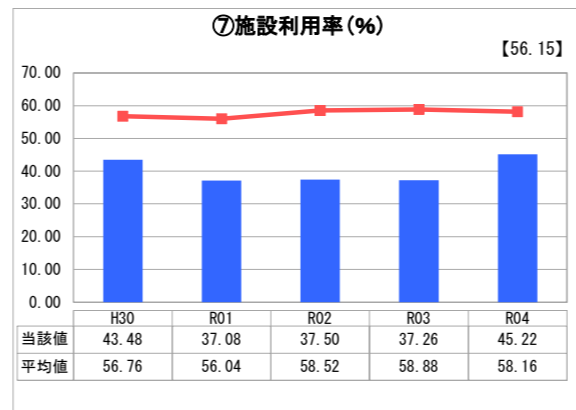
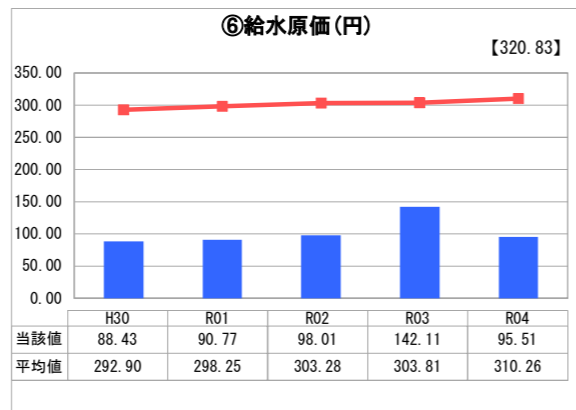
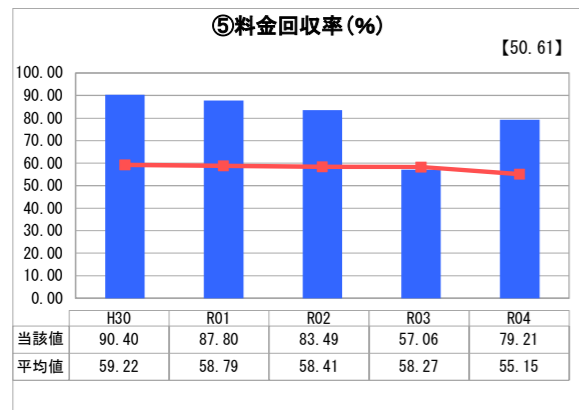
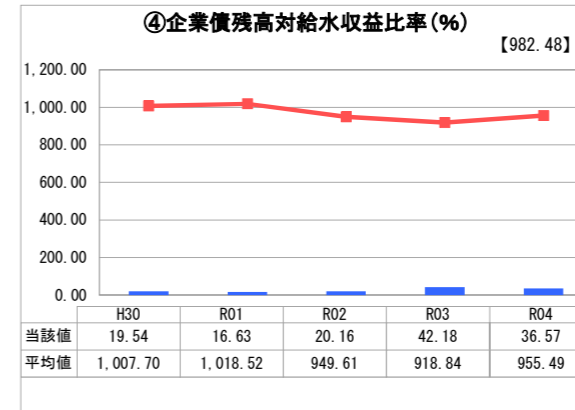
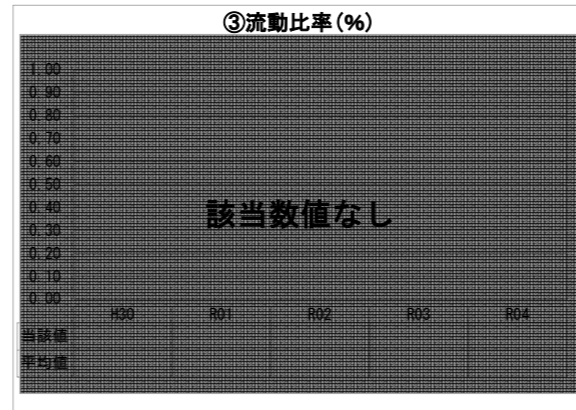
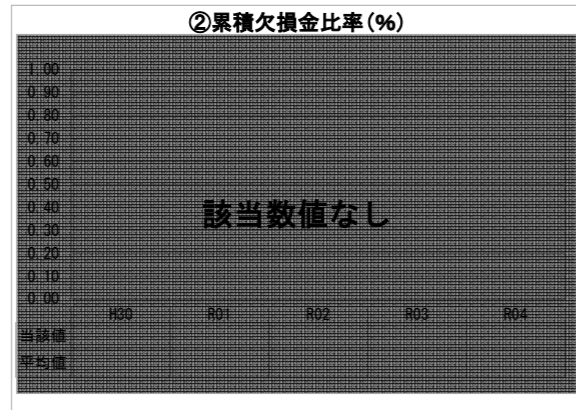
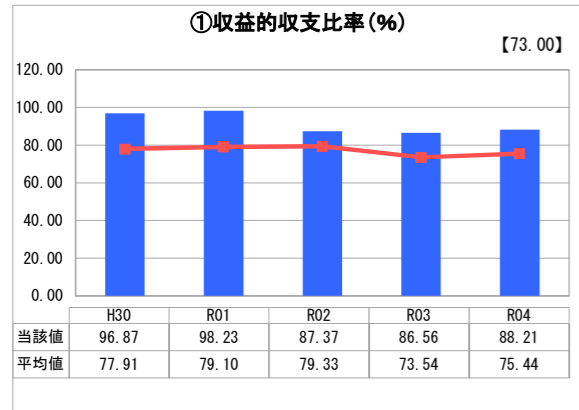
群馬県 川場村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	97.50	1,320	

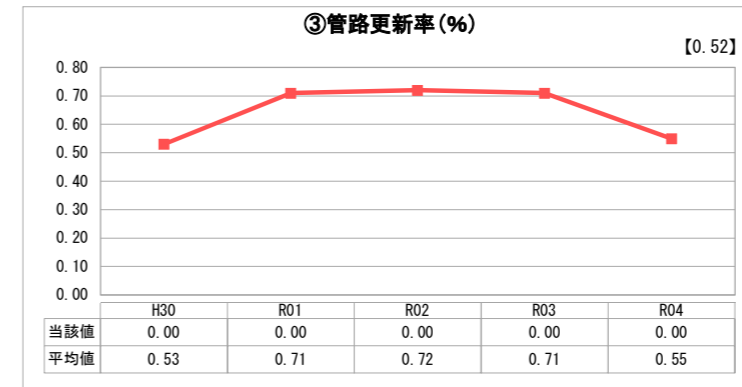
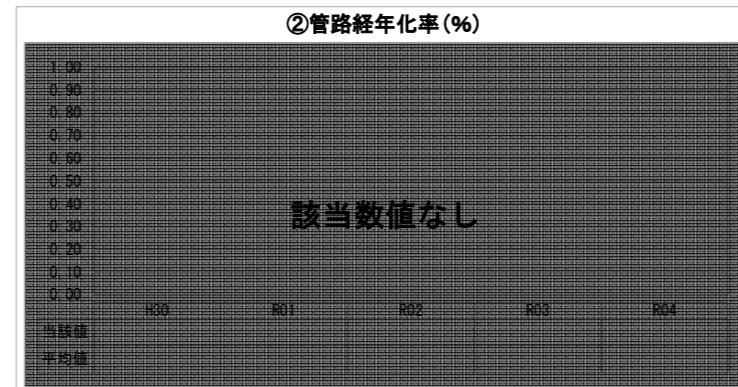
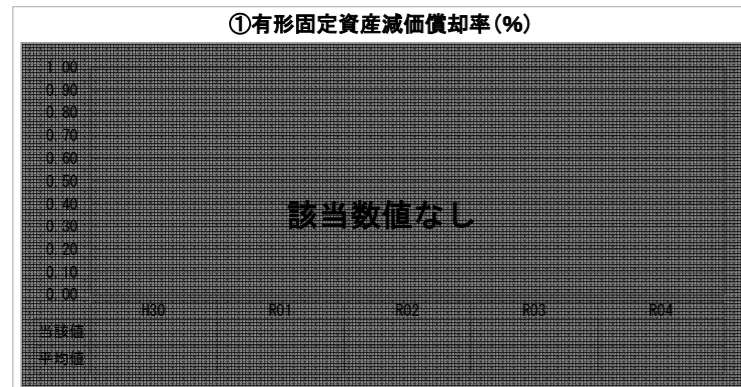
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,105	85.25	36.42
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,008	62.20	48.36

グラフ凡例		
■	当該団体値(当該値)	
—	類似団体平均値(平均値)	
【	令和4年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「収益的収支比率」をみると昨年度とほぼ同じ比率となっている。全国平均、類似団体平均より高い比率ではあるが、老朽化による修繕等が今後も増加することが予想されるため、料金改定を進めていく必要があると考える。

「企業債残高対給水収益比率」は、昨年度と同様、公営企業法適用に伴い起債を行ったため数値の変動は少ない。

「料金回収率」は、昨年度に台帳不備による管の伏せ替え、老朽化による機械器具の修繕費用等の増加が要因で大きく減少しているが、今年度は、以前と同じくらいの数値に増加している。

「給水原価」は昨年度と比較し大きく増加している。これは「有収率」が減少していることが要因となっている。

「有収率」は大きく減少しているが、これは年間総配水量が増加したことに対し、年間総有収水量の数値はあまり変化していないためである。各種経費の増加を考えると、料金改定が必要である。

以上のようなことから、経営状況が健全とは言い難い状態である。

### 2. 老朽化の状況について

管路の整備後、更新をしていないため、老朽化による破損、漏水等が増加している。

施設設備も最低限の修繕で補っているが、修繕費用は増加しているのが現状である。

計画的に改修を進めていく必要がある。

## 全体総括

老朽化対策、管路の更新等、計画的に進め、経費の平準化を図っていく。

また、料金見直しは、今後の財源確保のため大きな課題であるが、管内市町村の現状や村民への説明等も含め、慎重に検討していかなければならない。